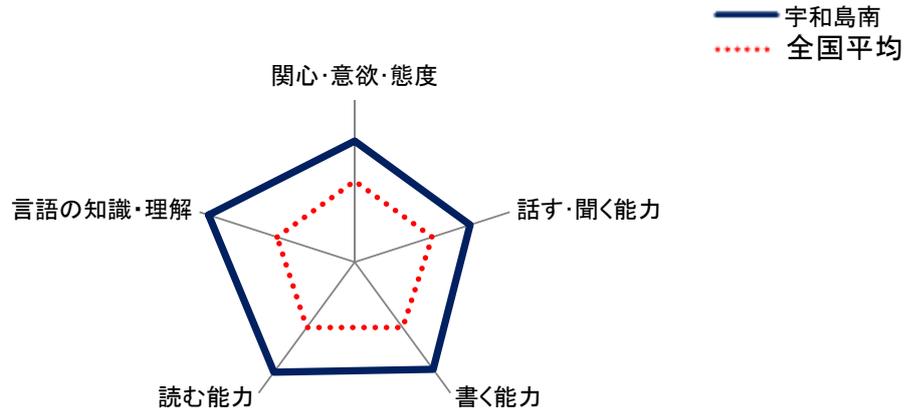


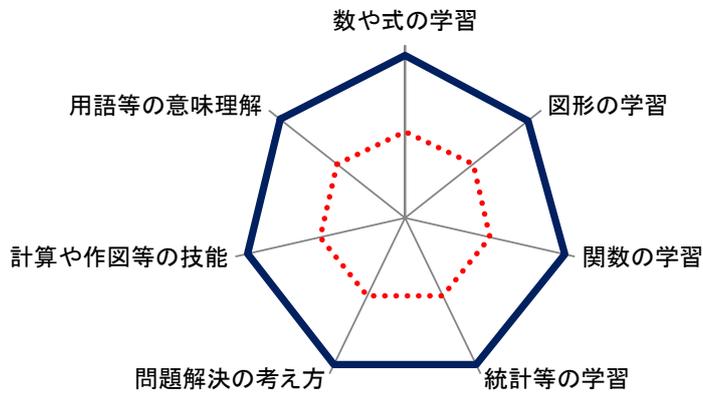
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

※ グラフはA問題とB問題の平均で表示

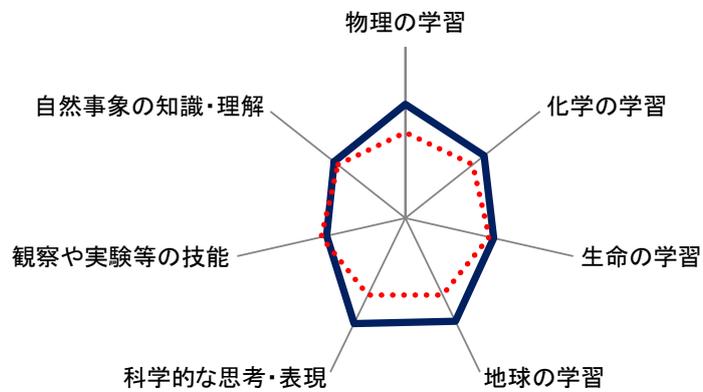
【国語】



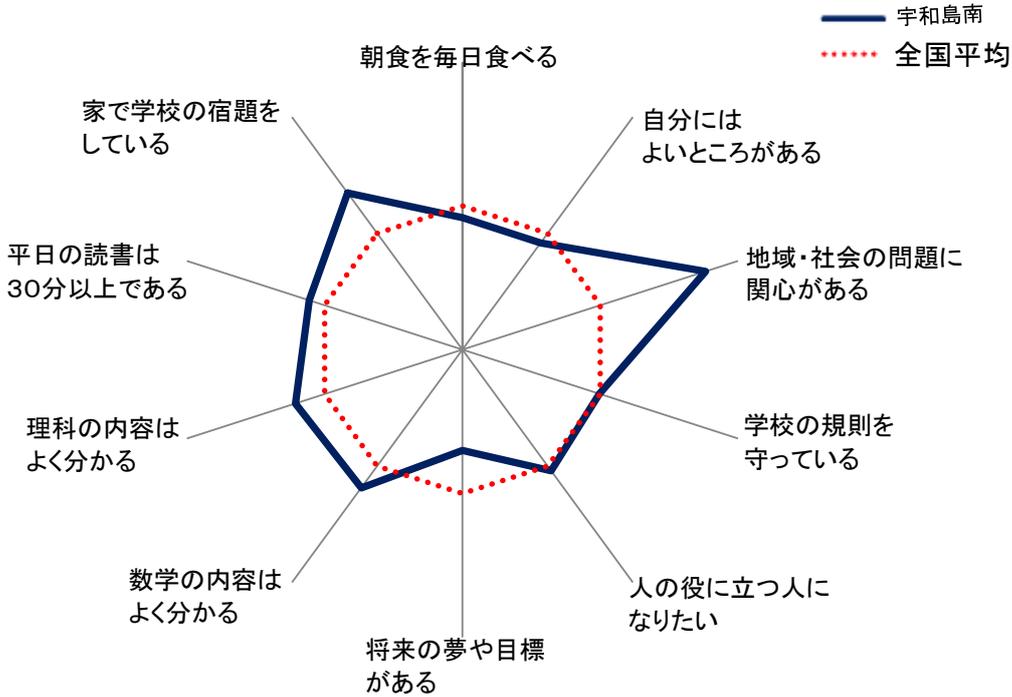
【数学】



【理科】



○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

【国語】 「知識」「活用」に関する問題とも、平均正答率は全国平均を上回っており、標準以上の学力は付いているといえる。領域別に見ると、「知識」に関する問題では各領域において大きな差はないが、「活用」に関する問題では、「書くこと」の正答率が比較的低い。特に「目的に応じて文章を読み、論の展開を適切に捉えながら、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて内容を整理して書く」という問題を苦手とする結果が出ている。今後は、現在身に付けている単独の「読むこと」「書くこと」をつなげて、実際に活用できるようにしていく取り組みが必要である。

【数学】 「知識」に関する問題では、本校の平均正答率は80%であり、全国平均正答率を14ポイント上回っていた。学習指導要領の領域である、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の各分野の平均正答率も、全国平均正答率を12ポイント～17ポイント上回っている。一方、各設問での正答率の結果から、図形に関する問題に課題があることがわかった。特に、図形の対称に関する問題は、唯一、全国平均を下回っていた。今一度、線対称や点対称について確認をし、学び直しをしていく必要がある。「活用」に関する問題では、本校の平均正答率は62%であり、全国平均正答率を15ポイント上回っていた。学習指導要領の領域ごとの平均正答率も、全国平均正答率を13ポイント～17ポイント上回っている。各設問での正答率の結果からは、与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することができる問題に関して、課題があることが分かった。今後、日々の授業や定期考査等を通して、文章題に触れる機会を増やしていく、読解力の向上に努めていきたい。

【理科】 全体の平均正答率は、全国平均を約4ポイント上回っている。領域別に比較すると、どの領域も全国平均を上回っているが、化学的領域と生物的領域では、全国平均をやや上回るにとどまっている。この領域は、学習してから時間が経過しているため、学習内容を忘れてしまっている生徒が少なくないことが考えられる。今後、週末課題や小テストなどの頻度を高めることで知識の定着を確実なものにしていきたい。観点別に比較すると、観察・実験の技能が全国平均をわずかに上回っているが唯一下回っている。今後、学習指導方法を見直すとともに観察・実験の時間を十分に確保し、観察・実験の技能の向上に努めていきたい。

【生徒質問紙】 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目は、肯定的な回答が、全国平均を10ポイント以上上回っている。これは、本校の生徒が勤勉であり、計画的な学習の重要性を理解していることを現していると考えられる。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の項目では、昨年度も同様であったが、全国平均を10ポイント前後上回っている。スーパーグローバルハイスクール事業での取り組みの成果であると考えられる。しかし、やや自己肯定感が低く、将来の夢や目標についても肯定的な回答をしている生徒の割合が全国平均よりも少し低いので、一層自信や行動力を高めることができるような指導や教育活動を実践していきたい。